

環境が大きく変化しつつある。ハード、ソフト両面におけるこのような発展は、統計データの解析に少なからぬ影響を与え、これまでの統計学では予想もできなかったような、複雑かつ大規模なデータを解析することも可能となり、これに伴って Statistical Computing といった学問分野が成立した。我国のこの分野の研究は、個々の研究者や実務家が自らの必要と興味だけで進められてきており、関連分野の研究者が一同に会し、総合的観点から討論することが必要である。統計学本来の使命である実践的方法の開発を主眼に据えて、次のような項目について議論を行う。

- ① 統計ソフトウェアの諸問題
- ② コンピュータグラフィックスを活用した統計解析結果の表現
- ③ マイクロコンピュータを用いる統計教育
- ④ 大型統計モデルによるデータ解析のための数値アルゴリズム
- ⑤ クラスタリングにおけるアルゴリズムの研究

共-13 幾何学的構造・空間パターンと統計

統計数理研究所 種 村 正 美

空間に散布された物体（形をもつ対象）の幾何学的形状、散布状態に関する知見を得ることはさまざまな分野で現われる重要な課題である。このような課題を種々の分野の研究者が共通の問題として捉えようという気運が最近、我が国で急速に高まりつつある。そして、この問題を包括したかたちで、形一般の学際研究をめざす「形の科学会」がことし発足している。個別物体の形状、物体集合の空間構造に関する記述・モデル化・推論には統計的な観点が不可欠である。にもかかわらず、そのための手段・手法はまだ完備されていない。そのため、ここには統計学の側のなすべき課題が数多くあるといえる。この研究会では、昨年度開催されたシンポジウムの枠をさらに広げ、かつ中心テーマを絞って、研究者が個々の分野における問題点を出し合い、互いに討論し合う場を設けることによって、問題解決の糸口を見つけて行きたい。

共-18 数式処理の応用と普及

統計数理研究所 仁 木 直 人

数式処理システムは、数値計算と同様に、科学技術研究に欠くことができないものとなりつつある。このような時に、多分野の研究者が集まり、数式処理およびそれに関する話題について討論を行うことは意義が大きいと思われる。この研究会の目的は以下のようである。

a. 数式処理研究者、数式処理に関心の深い統計研究者、数式処理を各方面で応用し成果を挙げつつある研究者との間の討論に基づき、数式処理システムの主に応用面での問題点、課題等を明らかにする。

b. 公開の研究会とすることにより、数式処理を利用しようと考えている研究者、これから勉強しようとしている学生等への啓蒙・普及を図る。

c. 使い勝手の良い国産の数式処理システムの開発計画を推進するために、その母体となる研究組織、研究体制、研究方針の検討を行う。